

※中面の詳細記事もご覧ください。

大規模「骨壺納骨型樹木葬墓地」 この秋、続々オープン予定！

千代石(株) (本社 横濱市神奈川区)



私が、千代石にて重要視しているのは、供養の継承とご寺院様との絆です。樹木葬には創成期から携わってきましたが、当初はこの業者も30年後、50年後よりも今を考え、利益ありきの簡素な工事や利益ありきの販売スキルをご寺院様へ提案してきました。それではだめなんです。ご寺院様は、この樹木葬墓地をお寺の一大プロジェクトと考え、次世代住職に譲り渡し管理する覚悟で我々にお任せいただいているのです。千代石では、過去の経験、反省を踏まえ、工事は私の考えに賛同してくれた各方面のプロ達とともに弊社が作り上げた工法を用い、長い期間にわたってご寺院様が安心、安全に管理できるような樹木葬墓地を作りあげました。そして、この樹木葬墓地をきっかけに、供養の大切さを伝え続け、供養によってお客様とご寺院様を結び、未来に向けてご寺院様での新しい供養の形を構築してまいります。

千代石株式会社 河東田 清八郎

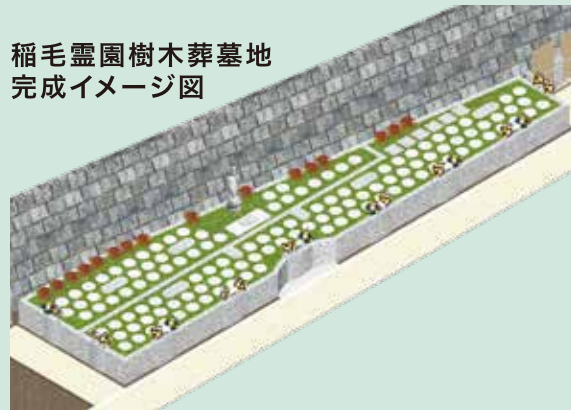
千代石(株) (本社 横濱市神奈川区、河東田清八郎社長) が供養重視の視点で考案し、協賛専門家の力を集結して設計・開発した「骨壺納骨型樹木葬墓地」(以下、本樹木葬)が首都圏で快進撃を続けている。異業種や他社の樹木葬とは一線を画す樹木葬としてその評価を高めているが、最近特に目立つのが百区画以上の大規模な開発事例だ。

これは、自治体の条例などで墓地開発の規制が厳しさを増すなか、樹木葬の人气が一般区画の墓地を大きく上回り、新規の受け皿として完全に定着していることを示すもの。

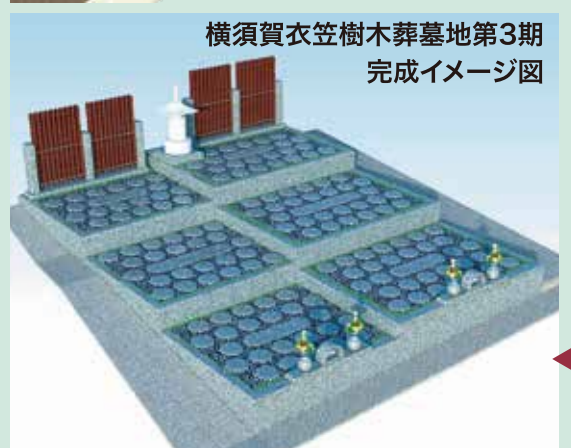
一般墓地を中心とする霊園は、開園までに膨大な資金と時間、手続き等が必要で、完売するまでに時間がかかるのが難点とされるが、「骨壺集合体(一区画扱)」である樹木葬墓地は、開発・拡張等のメリットが大きい。また寺院敷地内の未利用地や改葬(墓じまい)等で返還された空きスペース、あるいは将来の備えとして確保しておいた広大な敷地など、それぞれの規模や予算に応じて柔軟に開発できるのが大きな特徴であり、しかも抜群の集客力があり、販売スピード(初期投資の回収)も優れることから、「これから新しく墓地をつくるなら樹木葬墓地しかない」という流れに完全にマッチしているともいえるだろう。

この秋オープン予定の大規模「骨壺納骨型樹木葬墓地」

稲毛霊園樹木葬墓地
完成イメージ図



横須賀衣笠樹木葬墓地第3期
完成イメージ図



▲10月中旬オープン予定
稲毛霊園樹木葬墓地 第1期
(2期・3期も計画あり)
120区画

◀11月オープン予定
横須賀衣笠樹木葬墓地 第3期
147区画

湘南エリアでも、今秋100区画以上の
大規模「骨壺納骨型樹木葬墓地」がオープン予定です。

弊社の「骨壺納骨型樹木葬墓地」
を用いて、新事業を始めてみませんか。

ご寺院様を通して供養の大切さを
継承させていくプロジェクトに
賛同していただける石材店様を募っています。

相縁本部まで、お気軽にお問い合わせください。

TEL 045-620-8424

(火・水曜定休)

千代石株式会社 相縁本部

〒221-0822 神奈川県横濱市神奈川区西神奈川1-6-15 桜ビル906

同社では、本樹木葬を地元の石材店とともに普及・促進を図るため、社内に相縁本部を設置してさまざまな業務を支援しているが、本事業の営業及び受け入れ体制をさらに拡充・強化すべきと判断。八月一日付けで本社機能を同じ市内の交通至便な場所へ移転し、相縁本部の拠点として活動していくことになった。本樹木葬の理念や特徴などは中面の記事をご覧いただきたい。これから新たに誕生する樹木葬墓地は、「骨壺納骨型」が主流になる時代が来るかも知れない。

※口絵6〜7頁のカラー広告もご覧ください

千代石(株) (横浜市神奈川区) の相縁本部が本格始動 新オフィスで第2章へグレードアップ



新オフィスにて、河東田社長（中央左）と相縁本部のスタッフ3氏。左の女性が相縁本部長の中村司氏、右端が設計・工事担当で一級建築士の資格をもつ岩永和丸氏（千代石設計部）、中央右がクリエイティブディレクター（販促・デザイン担当）の大竹伸一氏



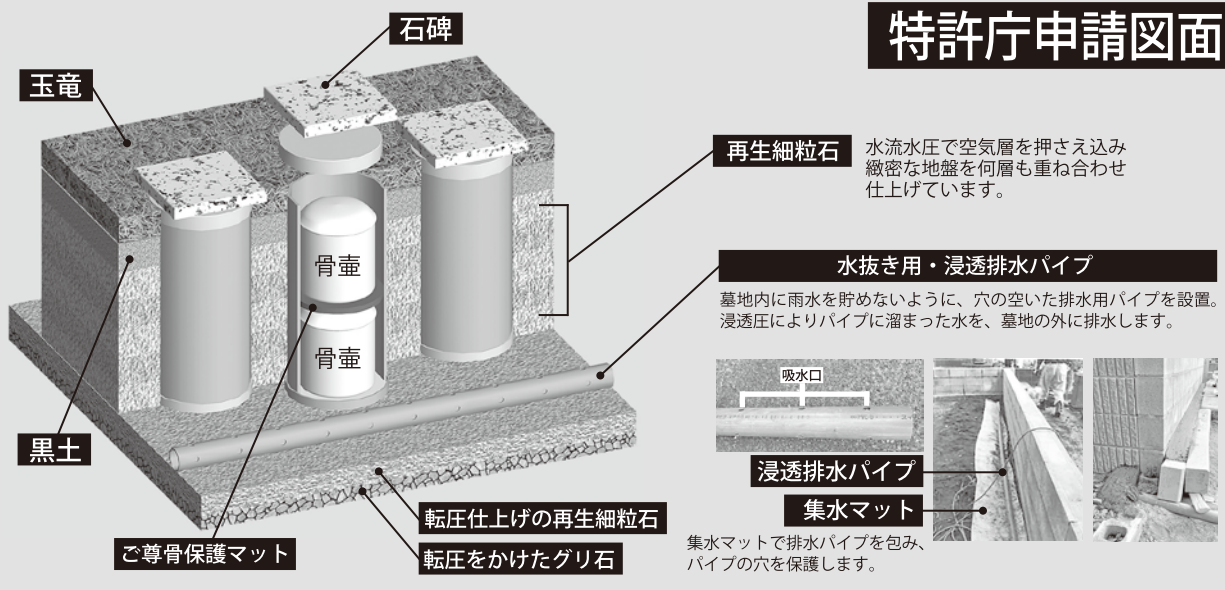
新オフィス（相縁本部）が入った JR 東神奈川駅前ビル

苦戦する一般墓地をよそ目に、いまやお墓の主流となりつつある樹木葬墓地。異業種も続々と参入し、市場は急拡大しているが、一方で、皆さんの工事が招いたトラブルも各地で発生している。そうしたなか、千代石(株)（河東田清八郎社長）が供養重視の視点で考案し、県認可の公共土木業者や一級建築士、造園事業者など協

賛専門家の力を集結して開発・設計した「骨壺納骨型樹木葬墓地」（以下、本樹木葬）が、他社と一線を画す樹木葬として人気を集めている。同社では、石材店が樹木葬墓地を展開するにあたり、寺院への提案から樹木葬墓地の施工・販売に至るまで総合的にサポートする相縁事業部を社内を設置していたが、本事業の営業及び受け入れ体制をさらに拡充・強化するため、八月一日付けで新オフィスを開設。本社機能を移転するとともに、同事業部を相縁本部に改称して新たにスタートすることになった。

本樹木葬の基本理念や特徴、施工事例などは、本誌二〇二三年二月号及び四月号、六月号で詳しく紹介しているが、そのポイントを整理すると以下のとおりとなる。

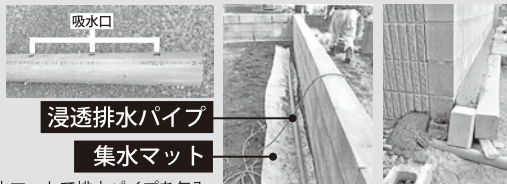
特許庁申請図面



再生細粒石 水流水圧で空気層を押し込み緻密な地盤を何層も重ね合わせ仕上げています。

水抜き用・浸透排水パイプ

墓地内に雨水を貯めないように、穴の空いた排水用パイプを設置。浸透圧によりパイプに溜まった水を、墓地の外に排水します。



集水マット

集水マットで排水パイプを包み、パイプの穴を保護します。

① 骨壺のまま納骨できる

遺骨を別の容器に移し替えたり、粉骨する必要がない。参列者の祈りが込められた遺骨は「尊骨」になるといわれており、その尊厳性を保ちながら納骨・供養できる。

※遺骨を移し替える方法では、準備や作業に加え、残された骨壺を処分する必要があったが、その手間と経費が不要となる（完売後は、そのために仮設事務所などを現地に存続する必要がなくなり、ランニングコストの削減にもなる）。

② 協賛専門家集団による優れた耐久設計

さまざまな分野のプロと開発した独自の技術・工法を採用。基礎工事は、しっかり転圧した地盤を複数の層で形成し、土中に染み込んだ雨水を浸透圧で墓地の外に排水するパイプが埋設されている（特許申請中「特願2022-21361」）。

※既存の樹木葬のなかには、土木の専門知識・経験のない造園業者に施工を丸投げするケースがあり、不慣れた施工や排水工事の不備などが原因で集中豪雨や凍結等により納骨ポットがズレたり、浮き上がるトラブルが報告さ

れている。本樹木葬であれば、三十三年や五十年など長期にわたる永代供養に充分耐えられる構造となっている。

③ 現在のニーズに対応

葬儀単価が大きく落ち込むなか、高級タイプの骨壺を売ることでの収益を確保しようとする業界側の意向と、「せっかく大金を支払ったのだから」お気に入りの骨壺のまま納骨したい（「さりたい」という施主側の要望にも応えられる）。

また現在の樹木葬には複数の埋葬形態が存在し、顧客の選択肢が広がった結果、遺骨を別の容器に移し替えたり粉末することに違和感や抵抗感を覚える人が増加。そうした不満も骨壺納骨にすることで解消できる。

最近では、顧客から「納骨のとき、お骨はどう扱うの？」と質問される場面もあり、「骨壺納骨」が墓地や供養施設を選ぶ際の重要なキーワードにもなっている。

④ 異業種や他社との差別化に有効

協賛石材店をエリア制で募集し、その石材店だけが本樹木葬を扱えるので、異業種や他社と差別化を図ることができる。



新オフィスで打ち合わせをする河東田社長とスタッフの皆さん

最後に、相縁本部として新スタートするに当たって、本事業の魅力や意気込みを以下の社員三氏に語ってもらった。

「お墓の考えや供養のあり方が大きく変化するなか、地域の石材店様とともに寺院を活性化してお手伝いをし、お客様が安心して利用できる



最終段階の骨壺納骨筒の固定仕上げ作業（右）と現在のようす（横浜慶珊寺樹木葬墓地）

⑤ 万全のバックアップ体制

お客様への説明のほか、企画・設計から各種書類関係、施工、販売ノウハウ（パンフレットやチラシ作成など）に至るまで、同社がすべてバックアップしてくれる（事業の大半を同社に一人するか、石材店主導で事業を進めるか、二つのプランが用意されている）。

「骨壺集合体（二区画扱い）の樹木葬は開発・拡張等のメリットが大きく、異業種の参入もあって競争が激化しています。それがトラブルが多発する一因にもなっています。小島宏允先生が二十年前、『日本人のお墓』（社）日本石材産業協会発行、お墓ディレクター検定用テキスト）で指摘されたように、現代の家族の意識は先祖供養（過去）ではなく、自分の死後設計や子孫（未来）に向かっています。その未来型供養のニーズにソフト・ハード両面で応えられるのがこの骨壺納骨型樹木葬墓地です。お客様で、その理念や施工品質、将来性などは高く評価され、小區画から百區画以上のもので規模や予算に合わせた新たな計画が各地で続々進行しております。今年中に百區画を超える大型の骨壺納骨型

る供養の場を提案したい」（営業開発本部・後藤実部長）

「寺院が存続できなければ石材店の仕事もなくなってしまうが、相縁本部としては寺院・石材店・お客様・弊社、『四方よし』を理想としており、そのなかで一人でも多くの笑顔をつく

樹木葬墓地が千葉県で一件、神奈川県で二件オープンする予定です。そうしたなか、これまで通り保土ヶ谷事務所は存続させますが、本樹木葬の更なる普及・促進のためJR東神奈川駅に隣接する便利かつ少し広い場所に新オフィスを構え、ここに本社機能を移転し、相縁本部の拠点として活動していくことになりました」と河東田社長は話す。

さらに「新生・相縁本部では、優秀な人材をはじめ、本樹木葬の施工・運営・集客・販売のノウハウなど相縁事業に関わるすべての機能を新オフィスに集約し、本樹木葬に関するご説明や事例紹介のほか、石材店様へより良い情報を提供できる場として開放したいと思っておりますので、ご興味、ご質問などございましたら、事前にご一報のうえ、ぜひお気軽にお立ち寄りください。お待ちしております」とも述べる。今年五月の合同説明会には、業界（墓石・建築石材）をリードする大手企業や有力石材メーカー、地方の老舗石材店らが出席したほか、大手石材商社からも問い合わせがあり、手応えを充分感じているという。

「当社が提案する、寺院の立て直しに有効な新たな仕組みをご活用いただき、お客様と良好な関係を築き、ご縁を深めるきっかけにしてほしい」（総合事業本部・今富克也部長）

飯島功部長）

もはや樹木葬墓地Ⅱシンボルツリーを植えた、見栄えのよいガーデン墓地ではない。対象エリアの市場調査に基づいて、ターゲットを細かく分析し、より安心・安全性の高い、価値ある樹木葬でないと選ばれない時代となった。営業力に優れる異業種の参入を阻止し、お寺から信頼される地域一番の石材店を目指すのであれば、本樹木葬は心強い味方になってくれるだろう。

◎千代石㈱・新オフィス（相縁本部）

新住所Ⅱ神奈川県横浜市神奈川区西神奈川1-

6-15 桜ビル906

新TEL045-620-8424

新FAX045-620-8425

<https://www.chiyoseki.jp/>

※口絵6〜7頁のカラー広告もご覧ください

神奈川県横須賀市で進行中の横須賀衣笠樹木葬墓地の第三期完成予想図（百四十七区画）

